

平成20年度「全国学力・学習状況調査」の結果

平成20年4月22日(火)に全国の小学校6年と中学校3年生を対象に行われ、本町では、小学校143人、中学校154人が参加しました。

教育委員会では、12月号と1月号の2回に分けて本調査についての結果を紹介しします。今回は、学力面の結果について本町の児童生徒の状況を全国や県の結果と比較したいと思います。

□ 調査内容について

学力面の調査と学習状況面の調査があります。

学力面の調査は、国語と算数・数学で、児童生徒にどれだけ学習したことが定着しているかという知識面を調べる問題（A問題）と、学んだことを実生活の様々な場面に活用する力を調べる問題（B問題）の2つに分かれて調査が行われました。

□ 調査結果について

調査結果については、本調査により測定できる学力は特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面にすぎないことを踏まえていただきたいと思います。

20年度の調査は、より正確な理解が必要な問題が多い出題となり、19年度と比べると、少し難しい内容となりました。そのため、全国、本県、本町とも各教科の平均正答率が低くなっています。

☆ 大崎町の子どもたちの学力について

1 知識に関する問題（A問題）の正答率

	教科	全国	県	本町	全国比	県比
小学校	国語	65.4	66.2	66.3	+0.9	+0.1
	算数	72.2	72.8	73.0	+0.8	+0.2
中学校	国語	73.6	73.0	72.3	-1.3	-0.7
	数学	63.1	61.4	58.1	-5.0	-3.3



- 国語A…小学校は、全国平均、県平均とほぼ同じです。中学校はどちらもやや下回っています。
- 算数A…小学校は、全国平均、県平均とほぼ同じです。中学校は、どちらも下回っています。

2 活用に関する問題（B問題）の正答率

	教科	全国	県	本町	全国比	県比
小学校	国語	50.5	50.1	46.8	-3.7	-3.3
	算数	51.6	49.0	47.5	-4.1	-1.5
中学校	国語	60.8	59.5	56.5	-4.3	-3.0
	数学	49.2	47.3	48.9	-0.3	+1.6



- 国語B…小学校は、全国平均、県平均を下回っています。中学校は、どちらも下回っています。
- 算数・数学B…小学校は全国平均を下回り、県平均をやや下回っています。中学校は、全国平均とほぼ同じで、県平均をやや上回っています。

3 結果から考えられること

本町の児童生徒は、学習したことはおおむね定着しているということが、A問題の結果から伺えます。本町の児童生徒は基礎・基本は定着していますが、それをいかに実生活の場面で活用するかということが課題になるとB問題の結果から伺えます。

問題別に見ますと、国語では、書く問題や読む問題についてやや弱い面が見られます。算数・数学では、グラフも読み取りや関数の問題についてやや弱い面が見られます。

今回は、学力面だけについて紹介しましたが、次回の1月号では学習状況面の学習習慣の結果と併せて、具体的な取り組みや家庭や地域の皆さまへのお願いなどをまとめて掲載する予定です。